

会 議 録

1 会議名

令和4年度第8回保倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・地域独自の予算の事業一覧について（公開）

【協議事項】

- ・「地域活性化の方向性」について（公開）

3 開催日時

令和5年2月21日（火）午後6時00分から午後7時51分

4 開催場所

上越市立保倉地区公民館 研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 丸山隆夫（会長）、池田つえ子（副会長）、今井二三夫、荻原輝義、河瀬青志、佐野 宏、平原 保、宮崎邦夫、山本 均（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【丸山会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：山本委員、池田副会長に依頼
- 議題【報告事項】地域独自の予算の事業一覧について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

先日、正式に事業名が公表され、(仮称)が外れたので今後は地域独自の予算ということで説明させていただく。

- ・資料No.1「令和5年度地域独自の予算」に基づき説明

【丸山会長】

説明に対し、質疑を求める。

【佐野宏委員】

令和5年度の市全体の予算が146件で約9,400万円と発表されたが、昨年は何件で予算はいくらだったのか。それと比較して何パーセント減になるのか教えてほしい。

【中村センター長】

令和4年度の地域活動支援事業との比較では、採択件数が259件である。259件に対して取組件数146件で、103件の減。パーセンテージは39.8%の減という形になる。採択額では、1億5,042万2,000円と比較すると5,628万6,000円の減。パーセンテージでは37.4%の減となる。取組件数、予算件数ともに減額であったことは間違いない。

【佐野宏委員】

昨年と比べて、地域の皆さんを元気にしようという提案に対して、各地区で予算が非常に少なくなっていると思う。これに対して市はどう考えているのか。あらかじめ予算が決まっているのであれば仕方ないが「地域を元気にして下さい。地域から頑張ってください」と言っても昨年度より減ったとなると、活性化しないようにしていると取られかねない。

【中村センター長】

佐野宏委員から予算が減になると、地域を元気にするという趣旨からはずれるのではないかという意見をいただいた。確かに、予算とすれば減額になったことは事実であり、市としても課題だと受け止めている。ただ、地域活動支援事業から新しい制度になったということ、今まで備品を中心にしてきて、活動が主ではなかった部分、スポーツ団体への備品等、様々な課題が市のほうに寄せられたので、地域活動支援事業の幕を引いて、新しく地域独自の予算として令和5年度はスタートしたものである。事務局として皆さんの意見を受け止め、また、自治・地域振興課にも伝えながら、課題として認識したいと思う。

【山本委員】

佐野宏委員と重複するが、保倉区はわかるが他の区がどのくらい前年と比べて減ったかも問題だと思う。地域活動支援事業は各区の平均が300万円程だと思う。そこから考えると、全体の予算はかなり減っていると思う。特に直江津地区が大きいのではないかと感じている。それだけ政策にマッチしたものが無いという評価だったのか。佐野宏委員が言われた、元気が出るような方向性が全く見えてこない。保倉区でも消防関係や安全にかかる継続案件があった。しかし、そういうものに予算をつけてはいけない、人的な要素がなくては駄目だと方針変わったというのはわかるが、急に方向転換されたのが非常に残念である。だから、各地区、特に私が言いたいのは、直江津地区が1番減額されているのではないかと。北部まちづくりセンターの担当の地区は特に少ないような気がする。市民もこの予算をみれば、「なんだ」という感じがすると思う。次回、その辺も認識していただけるような説明があればよいと思っている。

【中村センター長】

地域独自の予算の概要案については夏頃の公表だったところであり、9月に入ってから、地域活動支援事業の提案団体を対象に、説明会を行い、継続するかどうかという趣旨で確認した。令和6年度については、もうすでに地域独自の予算という制度は広く周知してあるので、随時、事務局に提案や相談いただくことは可能である。また、事務局としても地域協議会としても「こういう活動はどうだろうか」というような発案や発意もお願いしたいと思っている。どちらかというところハードを中心なものであったり、部活の楽器が主であったり、スポーツ団体の備品だったところから、令和5年度は資料No.1の一覧表の中で地域活動支援事業の継続としても、補助の対象にはなりづらい区もあったかと思う。13区を見ると、例えば、中郷区など、住民組織がしっかりして地域づくり団体が駅舎の復活などを行っているところは、住民の活動も豊富だったのではないかと感じを受けている。事務局としては、ソフト事業をいかに拾っていかれるかを考えて、なるべく皆さんの発意もお願いしつつ、また市としても支援していければと思っている。

【丸山会長】

他に意見を求めるがなし。

次に、【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

・1月25日発行の地域協議会だよりで募集した地域の皆さんからの意見について報告
本日は、前回までに委員から出していただいた「地域の魅力や特性、次世代へ残したいもの」をどうしていきたいか、班別に協議していただきたい。

【丸山会長】

説明に対し、質疑を求めるがないので、事務局案で進める。

それでは、各班に分かれて協議をお願いしたい。

— 班別協議 —

(再開後)

それでは、A班から報告をお願いしたい。

【河瀬委員】

保倉区の魅力の中で、空いている土地が多いこと、保倉区の特性・個性のところ、空き地・空き家が増えているという項目があり、以前も「保倉に家が建つ」という話の中で、インフラの関係で新しい家を新築するにしてもコストがかかり、なかなかできないということで、まず、市から補助金を出していただいた中で、建てやすくなるような仕組みづくりを考えてほしいという意見があった。

次に、毎年飛来する上吉野池のハクチョウだが、環境を維持するにはいろいろな問題がある。治水関係者の了解が必要である。池の近くの住民には、鳴き声が騒音になっていること、この池は田んぼの用水に使われているが、汚染関係で春まで水を溜めないという現状になっている。せっかく看板も出ているので、治水関係の方と話し合いをした中でこれをどう進めるのか。また、青野の池にもハクチョウが結構来ているという話なので、青野の方も上吉野の池の二の舞になるのではないかと危惧されているという話も耳にしている。この問題については、汚染関係で問題があるのではないかという意見があった。

その次に、保倉区の特性・個性の中で、一人暮らしの高齢者のみの世帯が増えているということで、清里区でエンディングノートを作ったという話があったが、保倉区でもエンディングノートを作成したらどうかという意見があった。

人口減に歯止めをかけるためには、若者のUターンの促進。それから、移住者を増やす。先ほど言ったようなインフラの整備が必要ではないかという話が出た。

町内ごとの行事はあるが保倉区全体としての行事が少ない。これと関連して次世代に残したいものの中で、保倉地区の行事、旧跡等というのは関連するのではないかという

ことで、まず、子どもが集まるようなイベントを行うという話があった。それと、保倉地区体育大会の復活、保倉区の文化祭の開催、各町内のイベントの紹介。皆さんに配布された地図で旧跡が出ているが、そこからいくつかをピックアップして、バスで巡るのではなく、みんなで歩いて、今回はここを回ろう、次はここを回ろうと、そういった企画を考えたらどうかと言う話が出た。

剣の舞はやはり継承して発展してほしい。私も今携わっているが高齢者が多い。小学校4年生を対象に1年間だけやっているが、それだけでなくて継続できればいい。例えば、中青野集落センターで、毎月第2金曜日に開催しているのだが、4年生が習ったら、そのあと引き続き興味ある方は参加してもらえたらメンバーも増えていくのではないかな。中青野だと地域的に難しい部分もあると思うので、ある程度まとまれば、公民館や体育館など場所を変えながら、保倉全体で進めていってはどうかという意見が出た。

【丸山会長】

補足説明を求めるがなし。

説明に対し、質疑を求める。

【宮崎委員】

剣の舞の継承活動を行っている団体の方に、独自予算のことを教え、もっと支援できるように、アドバイスできたらよいのではないかな。

【丸山会長】

他に質疑を求めるがなし。

次にB班に報告を求める。

【荻原委員】

保倉区の魅力だが、平たんな地で特徴はないが安心して住みやすい。町に行くにも、山のほうに行くにもちょうど真ん中で、とてもよい場所だと思う。その中で魅力として、まず農業の問題がある。農業か野菜しかない農業地帯なので、これを何とかいかしていきたい。これからはおそらく大農になっていくと思うが、大農の人たちも体が資本なので、機械ですべて作業するわけにいかない。そういった中で、農業を保っていくために、地域の人が協力し合っていくのが、一番ベターではないかと思う。どんなに元気が良くても、病気や怪我をすれば勝てないので、その辺を地域の皆さんでカバーしていければということで考えてみた。

また、空いている土地が多いという点。この地区は、市街化調整区域で家を建てるに

しても、なかなか市の許可が得られない状態である。その辺を市からも頑張っていたらきたい。空き地が多くて荒れているので、そういったものをもっと利活用できるような施策がほしいと思う。

自然を大事にするということで、二貫寺の森の道路のボランティアでの草刈や、そういった緑を大事にしていこう、自然の環境をもっと大事にしていこうという提案があった。これに関連してバードウォッチングをし、鳥を見たりするのもよいのではないかという意見もあった。また、色々な市街地や外国からでもよいので、保倉区に移住してもらうために、ホームページを作って紹介して、活性化を求めていく。今、どこでも行っているが、例えば、外国の人でも農業へ参加する人たちがたくさんいるので、それもよいのではないか。一つの例として、長野県の湯田中で、タイの人がりんごの花付けに来ているところもある。

保倉地区の個性・特性は、人と人との交流を結ぶために、体育大会と球技大会を復活させてほしい。

学校区の見直し、これも大事なことで、保育園、学校区、保倉に隣接する団地の子どもたちを近くの学校に入れるということも大事ではないかと思う。

次世代に残したいものは、希望だが、駒林に劔神社がある。その大祭の奉納に子どもたちも来て、歴史を見てほしいという意見があった。

【丸山会長】

B班から、補足説明を求める。

【山本委員】

駒林の劔神社の件だが、小学生は社会科見学で来ている。要は、保倉区の氏子の皆さんに来ていただいて、歴史を感じていただきたいということである。

【佐野宏委員】

活性化の方向性を私どもが協議すると、どうしても行政が絡んでくる。空き地がある。空き地が増えている、家を建てたいが、ここは農地法で駄目とか。以前、下吉野の耕地に恐竜を建てて叱られたという事例があるように、何かを行おうとすると行政が絡んでくるので、どうしても難しい。少子化で人口減少だが、では、どうするかといっても、最後は行政の絡みが引っかかる。それを外して考えると、どうしても小さい部分になると思うし、かといって後ろ向きでいても駄目なので、このグループで話したのは、空き家対策、人口減少の対策であれば、成功した事例がある。それを発表してもらった

ほうが刺激になってよいのではないか。下百々、五貫野、名柄に人が入ってきて家を建てている。どうして来てくれたのかを、よい事例として話し合っていけば、それを参考にして各町内でも考えていけるのではないか。田んぼにしても、今まで取り組んできたよい事例はある。それを言ったほうがよいのではないかと思う。

【丸山会長】

今の佐野宏委員の意見で、移住などの関係で成功した事例を知っている方がいらっしやったら、教えていただきたい。

【今井委員】

うちの町内に1軒、10数年空き家があったが、不動産業者を通して1月末から2人家族で入ってもらった。町のほうから来たということで、うちの町内は少ないところなので大歓迎している。何で来たのかは聞かなかったが、空き家になっているところでも、不動産業者が頑張ってくれたのか、入っていただいた。

【丸山会長】

各班の説明に対し、質疑を求める。

【池田副会長】

二貫寺の森の話が出ていて、うちの班でも話題になったが、あそこは地域的に言うところの下百々ではなく、諏訪地区の地籍になるのか。

【山本委員】

そうである。上越市の野球場を作るという話がなくなって、そこは二貫寺の森の中心になっている。下百々地籍がすぐ近くにある。そこは、二貫寺の森が隣にあるので、市で管理しているので、それ以上先に行かない。保倉区と諏訪地区と林が続いている。かなり奥が深いので、それ以上構わないので自然のままである。だから、草刈程度のボランティアはしてもよいのではないかという感じである。市で管理しているので、私も詳しい事はわからない。

【池田副会長】

何年も前だが、クラス会をバーベキューのところで行ったという話を聞いている。そういうことができるのだと思った。二貫寺の森もそうだが、名前は知っていても意外と知らないことが多いので、皆で行ってみると新しい保倉の名所がわかるのではないかという話が出た。市で管理しているということであれば、誰でも入って良いということか。

【山本委員】

夏は子どもたちの昆虫採集など、市でいろいろ計画して行っている。だから、バーベキューができるかはわからないが、そういう社会見学的な要素が強い。開発できないので、それが魅力である。

【丸山会長】

他に意見を求めるがなし。それでは、今日出された意見について事務局でまとめて次回以降、地域活性化の方向性を協議していくこととする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

次回の協議会は、3月中旬から下旬を考えている。日程については、会長と相談して調整させていただき、決まり次第、開催案内を送らせていただく。

【丸山会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください